

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300104		
法人名	株式会社あいわ		
事業所名	グループホームあいわ		
所在地	佐賀県小城市芦刈町永田3220-2		
自己評価作成日	令和4年 3月 17日	評価結果市町村受理日	令和4年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和4年4月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①長いコロナ禍を見据えた新型コロナウイルス感染症対策と生活 ②病院との密な連携、対応 ③コロナ禍における認知症等勉強会と個々の理解・対応 ④ホームの菜園で作った野菜や旬の食材を取り入れた食事や行事食で季節を感じて頂く等、食の満足・栄養・免疫を考慮した食事の提供 ⑤コロナ禍や遠距離で入居者様に会えないご家族への電話・写真・動画・文による詳しい近況の報告
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは令和元年5月に開設され、小城市南部で有明海に近い六角川沿いの半農半漁の小地区の中にある。入居者は地元の出身者が大半で、気軽に訪問する近隣住民も多く、地域の中に溶け込んでいる。食事は旬の食材を用いた職員の手作りで美味しく、入居者の楽しみとなっている。新型コロナ禍で、家族知人との面会制限の中、リモートを用いたり、ガラス越しの電話での会話など取入れ、入居者の心情に配慮した対応を行っている。入居者の平均年齢が92歳と高齢化しているが、出来る限り本人の意向を尊重している。往診制度や看護師の常駐など、医療支援も充実しており、管理者職員が一体となり、入居者本位の支援に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご自身の暮らしてきた地域で、地域やご家族とコミュニケーションを取りながら、安全に、ゆっくりと過ごし、お互いを思い合える暮らしを支援している。	理念は目につきやすい玄関リビングに掲げている。毎月の全体会議や朝夕の申し送り時、管理者職員間で理念に沿ったケアの実践が出来ているかどうか、検討し振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	不動明王様やゴミ置き場の清掃を行い、地域との交流を図っている。	コロナ禍で感染予防もあり、地域との交流の機会が減っているが、自治会に属し地域の行事参加や清掃作業など出来ることを行っている。地域の中に溶け込み、近隣の住民の訪問も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時など、地域の方と挨拶を交わしたり雑談を等で交流を行っている。地域の方の参加を交えた消防・消火訓練にて交流に努めている。苑の野菜畑は近所より成長を写真に収められたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の状況、入居者の状況、実施内容等の報告、意見をいただいている。	年5回、家族や行政、地域役員を交えて開催がなされている。コロナ禍で感染予防もあり、書面交付での開催をされているが、交付のみで意見の聴き取りまでには至っていない。	運営推進会議は年6回の実施が定められており、年6回の開催が望まれる。また、書面交付での開催の際にも、各関係者からの意見を聴取できるような工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防の為、頻繁に対面などでの連絡はとれていないが、必要時は連絡を取るようにしている。また、電話などで空き状況や紹介の相談を行っている。	コロナ禍ではあるが、オンライン開催での各種研修会の参加は積極的に行っている。感染予防のための予防接種情報等の共有や地域包括支援センターとの相談や連絡も取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。見守り重視、状況に応じ居室にて休息を行っている。研修会に参加するなどし理解を深めている。	現在日中の玄関の施錠はしておらず、身体拘束は行っていない。年2回虐待防止研修会に参加し全体会議で研修内容理解に努めている。日々のケアの中で、入居者への言葉掛けには特に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止への取り組みで研修会に参加。多くのスタッフが講師の話を聞けるよう、オンライン配信のものを受講し、各スタッフの勤務日に合わせた受講ができるよう行った。言葉、表情については虐待に当たらないよう注意し、スタッフ間でも気付き、言える環境作りを努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にてより理解を深め、今後の活用ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間にて説明を行うようにしている。疑問点についてはいつでも気軽に尋ねて頂けるよう、言葉かけを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは毎日の関わりの中で要望などを聞くようにしている。ご家族様には面会を控えて頂いているので電話での希望や要望を頂くようにしている。	コロナ禍で家族会や面会が制限される中、モニタリングや必要時に時に電話で聞き取っている。入居者とは日頃のケアの中で様子観察や聞き取りに努め、運営の改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の他、管理者を通して、または個人より直接意見を出して貰い、その都度十分に話し合い、検討、改善するようにしている。	事業所ではハラスメントの相談窓口も設け、職員が意見を出し易い環境作りに努めている。朝夕の引継ぎやスタッフ会議時、職員の意見を聞き取り、必要時個別に面談も行い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ごとの働きを評価し、貢献を正當に評価する様にしている。 また職員の声を聞き、話し合い、給与や働く環境の向上に努めている。希望休、有給を多く取れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議での問題提起や、職員間で伝達情報を周知し、ケアの向上に努めている。研修会に参加する機会を設ける。 新人教育にはベテランスタッフとマンツーマンでの指導日を設けた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防の為状況を見て研修会などに参加し交流を図っている。感染流行が少し落ち着いた時期の研修会では、各施設のコロナ対策方など新しい知見を得ることができた。感染症流行時はオンライン研修に参加するなどし、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報の収集などご家族様にも協力頂き、入居計画作成と説明を実施している。意見交換時には傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や見学時などお話をうかがい、不安に思っていることや疑問にお答えし、またご家族の思い出などを把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	紹介先、ご家族、介護支援専門員より情報を得、して欲しいことを把握し、支援計画立案や伝達を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に応じた関係の確立と対応でご家族様とも連携を取り対応している。スタッフ間で入居者様のその時そのときの情報の共有を行い、状態に応じて寄り添える様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の苑便りや電話での対応時に状態報告を行い、ご家族様、入居者様の思いを汲み取るよう努めている。苑便りではよりご家族様に日頃の過ごし方など知って頂ける様に写真や、各個人のプライバシーに配慮したQRコードを使つての動画の共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在新型コロナウイルス感染予防の為、面会制限を行っているが、窓越しや電話の他、入居者様宅付近へのドライブ外出にて途切れないよう努めている。またご家族様からのお便りや写真を定期的に見て頂いている。	家族や知人との面談や外出が困難となっているが、ドライブや感染予防を図りながらの面談、思い出の写真などを部屋に飾り、家族の協力を得て法事への参加など出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知の程度や個性を尊重して、状態に応じたリビング配置の調整をし、良好な関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご希望に応じて対応するようにお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活会話の中で、入居者様個人個人のお気持ちや要望などの把握に努め対応している。 伝達ノートを利用し、その都度検討、改善、意向に添えるよう努めている。	伝達ノートや日勤メモなど職員間で情報共有し、入居者の様子観察を行い、日常のケアの中で、個々の意向の把握に努め、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供者やご家族様より頂いた情報により対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人に確認しながら、個々に応じた対応をしている。また、スタッフ間でその日のご様子など情報伝達を行い、且つ細かな観察を行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ、ご家族とご本人の状況により立案し、問題が生じた際に再度、計画・立案、実行、評価、改善のPDCAサイクルを努めている。	コロナ禍もあり電話で家族の意向を聞き取り、本人、職員、主治医の意見を参考にし、プランの見直しを行い、担当者会議を開催、基本6ヶ月ごとにプランを作成、職員間で内容共有し、本人の状況変化時はその都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAPでの記録を行っている。日常での様子を観察し、問題が生じた場合は連絡ノートを利用して改善、実践、見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活上・精神上的のニーズを把握し、ご家族、入居者様を含めた対応をしている。 食材もホームの菜園でお世話し作った野菜を楽しんで頂いたり、季節や誕生日イベントを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長様や地域の皆様の協力を得て、安心な生活ができるよう支援している。今年は近隣の空き家の害虫駆除対策に区長様、地域の皆様の協力にて良い方向に対応できた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人の希望により担当医を決め、連携を図っている。	往診も取り入れているが、かかりつけ医の選択は本人家族の意向を尊重している。受診時は本人の身体状況を報告し、医療機関との情報連携を図り、職員間で内容を共有し、適切な医療受診の対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	問題が生じた際、連絡をし指示を貰い対応する体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ドクターとの連携、スタッフ、介護支援専門員、日頃より良好な関係作りと密な情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変時対応、リスクについて説明と意向を伺っている。急変時対応についての用紙は各居室に掲示している。	重度化した場合や終末期の対応について、入居の契約時、書面で説明している。医療機関との連携を図り、必要時主治医と面談を行い、緊急時の対応について入居者個々に書面を作成して、スムーズな対応が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常の発見と対応のフローチャート作成。異常に応じた活用を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域の消防団の方と、通報・避難誘導の訓練実施。居室のドア、玄関先等避難確認の目印、移動手段を掲示しスタッフ各自実際に行き確認する。 地震時・水害時のマニュアルを作成している。水害時等の避難経路までの移動訓練を実施した。	年に2回地元住民や消防団の参加を得て、夜間対応を含めた火災訓練を実施している。災害訓練に対して実際に避難場所の下見に行くなどの対応も取られ、備蓄品も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇改善に努め、気がついた事はお互いに声かけができるように努めている。また、尊重した対応を行うよう努めている。	日々のケアの中で入居者の尊厳を保てるように努めている。特に排泄時の対応や入浴時、言葉に気を付け外部から見えないように気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リビングなどでの会話の中で思いを表現できるように声かけを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日で1日の流れはあるが、1人1人が各々思いのままのペースで生活ができるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室へカット調髪を依頼し、各好みに応じた身なりへの対応を行っている。 クリスマス会では衣装、メイクをし写真撮影を行った。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを尋ね、食事に反映するようになっている。野菜の収穫、豆の筋取り、胡麻播りなど行ってもらったり、行事食などで季節を楽しんで頂き楽しみになる食事を心掛けている。	健康状態など考慮し、本人の好みに合わせた献立を提供している。料理は旬の食材を取入れて、美味しく彩りも良い、能力に応じ入居者の出来る手伝いがなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやスープなどで水分量を考えた食事作りを行い、見た目・味付けも工夫する様にしている。 脱水防止の為に電解質飲料補給など、状態に応じた水分摂取を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人の能力に応じた口腔ケアを行い、口腔内をチェック。出来ないところは支援を行っている。 義歯洗浄も定期的に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターン表にて把握し、介助・声かけを行ない、昼間はトイレでの排尿支援を行っている。	オムツ使用の入居者も、昼間はリハビリパンツを用い、排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。トイレのスペースは広く、2人体制での対応支援が容易な環境となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水溶性食物繊維・不溶性食物繊維をバランス良く摂れる食事の工夫を行なっている。水分の補給や朝夕に体操を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴計画表を用いている。本人の拒否時や体調に応じて調整を行なっている。入浴出来ないときは陰洗を実施。季節ごとに袖子を入れたり、菖蒲湯をし、入浴を楽しんで頂ける様努めている。	基本的に午前中週3回の入浴支援を行っている。入居者に合わせて時間や曜日の変更も行っている。職員とゆっくり会話を交わし、袖子湯や菖蒲湯も使い、生活の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドメイキング、定期的な布団干し、電気毛布や湯たんぽを利用した安全に考慮した保温の工夫を個々の状況に応じて支援している。 入眠は声かけして、19時から21時の間に行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の変更時は記録表に残し、伝達している。 症状悪化時、スタッフやドクターに報告し連携体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の特技を活かし、苑での生活の中でお手伝いや見守りをしている。 個々の嗜好品はご家族様の協力も得ている。 フラダンスレッスンを家族会時に発表を予定していたが、今年度は家族会の開催が出来ず、入居者様とスタッフで踊り発表の場とした。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にドライブやお花見を行なっている。 不動明王様付近や近所へ散歩をしたり、1ヶ月に1回、リサイクルの缶出しに行き、買い物もしている。また、リビングのカーテンを開け、いつでも外の景色が分かるようにしている。	コロナ禍で外出が制限されているが、小人数に分け花見などに行っている。元気な入居者は地域のゴミ置き場の掃除に参加し、車椅子での散歩も行い、出来るだけ外出支援に努め、地域住民との交流もなされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	扱っていない。(物盗られ妄想が出現したりと問題となるため)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルス感染予防の為面会困難となり、電話での会話やご家族様のお便り等で家族との関わりを大事にしている。お便り等は目に付くよう居室に飾ったり、時折見て頂くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新型コロナウイルス感染予防の為、次亜塩素酸入のもので毎日掃除、手摺拭き、各部屋換気を行なっている。チェック表などを用いた清掃管理を実施している。季節の生花を飾ったり、入居者様にお花を活けてもらったりしている。	コロナ感染予防もあり、空気清浄機を備え清掃に気を付け、清潔維持に努められ換気も出来ている。室内は明るく季節の花が飾られており、生活臭もない。壁には行事の写真など掲示され、整理整頓も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、席の配置は随時配慮し、テレビの視聴や、より良いコミュニケーションが取れ、会話が弾むよう配慮している。会話から個人様の思いを汲み取りやすくするため努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ADLや認知状況に応じた部屋の配置に注意している。心地の良い室温、湿度を保てるように努めている。	家族本人の意向や身体状況に応じ、ベッドや家具を配置し、居室内は広く、洗面台も備わっている。家族の写真や好みの置物も飾られ、清掃も行き届いており、居心地よい空間となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残された機能維持、回復が出来るよう、個々に応じた対応を行なっている。排泄後などの手摺使用に立位運動の実施、滑り止めにマットの使用をしている。		